

【授業科目】看護管理学 Nursing Administration

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開
豊田 妙子		4 年次 前 期	必 修	1	3 0	講 義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 （内容と 進め方）及 び課題に対 するフィードバ ック方法	授業概要／質の高い医療・看護を提供するために必要な基礎的知識について教授する。組織とはなにか、組織を効果的に機能させるためのシステム、マネジメントに必要な理論について紹介し、看護管理者および看護実践者（保健師・助産師・看護師）としての管理についても教授する。また、看護専門職（保健師・助産師・看護師）としてのキャリア開発についても講義を行い、自らのキャリア開発について検討する。 課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。または、授業内で全体に解説・資料の提示を行う。＊実務経験を持つ教員が授業を進める。								
実務経験に 関する授業 内容	看護管理の実務経験を有する教員が、看護職として必要な看護管理の基礎的知識について経験を踏まえて教授する。								
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野でヘルスケアシステムにおける看護の専門性ならびに関連する多職種の機能・役割を理解し、連携して地域社会に貢献することができる。」の達成に寄与している。								
到達目標 （履修者が 到達すべき 目標）	①看護管理・組織および組織構成員としての役割について説明できる。 ②外部環境・内部環境による組織への影響について考えることができる。 ③看護の質保証および質を評価するための方法について理解できる。 ④看護管理に必要な理論や関連する法律について説明できる。 ⑤看護専門職としてのキャリア開発を学び、自身の将来について考えることができる。								
時間外学習 に必要な内 容および学 習上の助言	事前学習：第1回～第15回 教科書の該当部分および関連する書籍・文献を読み、疑問点を整理しておく。事前課題が提示された場合は、指示に従う。（各30分） 事後学習：第1回～第15回 配布資料および教科書を用いて学びを整理する。疑問点などは十分に調べたうえで教員へ質問し、解決しておく。事後課題が提示された場合は、指示に従う。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習＋復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習＋復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習＋復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指示に従ってください。								
授業計画	第1回 看護管理の基礎：看護管理の概念 歴史的変遷（産婆・看護婦・保健婦の誕生） 第2回 看護マネジメントに必要な知識と技術①：リーダーシップ、フォロワーシップ 第3回 看護マネジメントに必要な知識と技術②：モチベーション、コミュニケーション 第4回 看護マネジメントに必要な知識と技術③：コンフリクト、パワー・エンパワメント 第5回 看護サービスのマネジメント①：急性期病院における看護管理 第6回 看護サービスのマネジメント②：地域包括ケア・在宅医療における看護管理 第7回 看護サービスのマネジメント③：組織構造、組織化、看護マネジメント・助産マネジメント・地域マネジメント 第8回 看護サービスのマネジメント④：ヒト・モノ・カネ・情報、看護提供方式 第9回 看護ケアのマネジメント①：看護ケアのマネジメントとは 第10回 看護ケアのマネジメント②：地域連携、多職種連携の必要性 専門職種間の連携・協働（看-看、看-助、看-保など） 第11回 看護の質保証・組織におけるリスク管理：第三者評価、事業継続計画 看護の質管理・助産の質管理・地域の質管理 第12回 キャリアマネジメント①：キャリアとは、キャリア発達に関する理論 第13回 キャリアマネジメント②：看護職におけるキャリア形成 第14回 キャリアマネジメント③：自己のキャリアを考える ＊ レポート課題 テーマ：看護職におけるキャリアとは何かを説明し、自己のキャリア発達を考える その他：提出等詳細は、授業の中で説明する 第15回 看護を取り巻く制度、看護と経営 ※ 適宜、グループワークを入れる							すべて 豊田	
評価方法 評価基準	定期試験 70%、レポート・グループワーク 30%								
教科書	吉田千文ら編「ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 第5版」 メディカ出版					参考書等	授業の中で適宜紹介します		
学生への 助言等	質の高い看護を提供するためには、組織・チームが機能する必要があります。組織・チームを機能させるためには管理の知識・技術を駆使する必要があります。看護管理者だけが看護管理を実践するのではなく、看護専門職者として成長し、人々の健康に関わるために必要なことを認識してほしい。積極的な授業への参加を望みます。								